

指導事例

小学校 高学年	題材名 生命の連続とわたしたち
------------	-------------------------------

1 題材について

一人一人は大切な存在であり、自己や他者の命は何よりも大切にされるべきものであるが、児童には、時として命を粗末にする言動が見られることもある。そこで、命の誕生の不思議や神秘に触れさせ、体内での成長や出産の様子を知らせたり、受け継がれている命の大切さを理解させたりすることは意義深いと考え、本題材を設定した。

2 ねらい

○ 生命誕生のしくみを知り、生命の大切さや連続性について理解することができる。

3 指導展開例

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点	資料・準備
導入	1 生き物の誕生について知っていることを発表し、動植物の命の誕生について確認する。 ・生活体験から (犬や猫の出産) ・理科の学習から 動物(卵の中の成長、母体の中の成長) 植物(受粉、結実)	○ これまでの生活体験や5年生の理科で学習した内容を想起させ、動植物の例をもとに、命のはじまりについて確認させる。	・様々な生き物の誕生 <資料1>
展開	2 ヒトの誕生のしくみについて確認する。 ・受精のしくみ ・命の継承 3 命のつながりについて話し合う。	○ 精子と卵子が結びつくことによって、命が誕生することについて確認する。 ○ 命は、遠い過去から現在まで受け継がれてきたことを確認させる。 ○ 自分たちにも生命を作り出すしくみがあることを押さえ、これから受け継いだ命を次の世代へ受け渡す立場になっていくことに気付かせる。	・ヒトの受精のしくみ <資料2> ・中学年指導事例 「命のつながり」家系図
終末	4 学習のまとめをする。 ・心のノートの詩を聞く。	○ 感動的な詩に触れさせ、まとめとする。	・心のノートの詩 <資料3>

4 他の教育活動との関連

○ 生命尊重(道徳)、ヒトの誕生(5年理科)

5 授業の配慮事項

○ 児童一人一人の生育環境、家庭環境に十分配慮する。

<資料1> 様々な生き物の誕生

卵から生まれる動物（卵生）

受精



卵の中にある養分を使って育つ。
(鳥類だけは親が卵を温めて育てる。)

ふ化



普通、親は何も世話をしない。
(鳥類はしばらくの間、えさを与えて育てる。)

成長



親と似た姿で生まれる動物（胎生）

受精



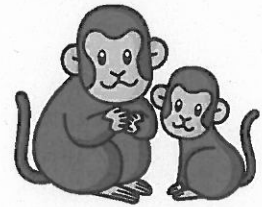
母親の子宮の中で、へその緒を通して栄養をもらう。

誕生



しばらくは母親の乳を飲んで育つ。

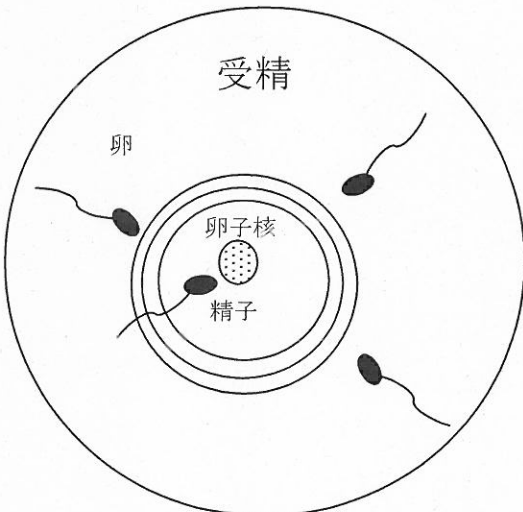
成長



たまごから生まれる動物 (卵生)	魚類	メダカ、キンギョ など
	両生類	カエル、イモリ など
	昆虫	カブトムシ、チョウ など
	は虫類	ヘビ、ワニ など
	鳥類	ニワトリ、スズメ など
親と似た姿で生まれる動物 (胎生)	ほ乳類	ヒト、サル、ウサギ、イヌ、ウシ など

<資料2> ヒトの受精のしくみ

受精



女性の体の中の卵（卵子）が男性の精子と結びつく（受精）と受精卵になり、生命が誕生する。

受精卵は母親の体の子宮の中で育っていく。

その間、胎盤とつながっているへその緒を通して、養分などを母親から受け取り、いらなくなったものを返している。

受精してから約38週間で、母親から生まれてくる。

1つの精子だけが卵子と結びつく

たったひとつの、かけがえのないものを
わたしたちはもらった。
花や木にも、動物たちにも、わたしにも
だれにも平等にたったひとつだけ。

それは
わたしの力で生かしていくものだから
そして
多くのものに支えられているものだから

何よりも大切にしたい
このいのち。



わたしがいまここにいるのは、奇跡に近いぐう然かもしれない。
受けつがれてきたいのちのバトンを受け取って、この時代に生まれ
多くの人たちに支えられ、守られ、こうして大きくなった。
まるで、ひとりで大きくなったような顔をしているけれど
実はいろいろなことに感謝しなければならないと思う。
このいのち、—— わたしのかけがえのないいのち。
これからもずっとかがやかせていきたい。
わたし自身のために。
わたしを支えてくれる多くの人たちのために。

<家庭へのお知らせ>

○月○日 (○曜日) の学級活動の時間に、性に関する授業を行いました。

今回の題材は、「生命の連続」でした。

子どもたちは5年生の理科の学習において、動物や人の誕生について学習しています。

また、4年生の保健では、初経や精通についても学習しています。今回は、思春期の体の変化と関連させて、自分たちの体にも生命をつくり出すしくみが次第に整いつつあることを実感させたいというねらいをもって授業を行いました。

学習が、自他の生命を大切にする心や、人格を尊重しようとする態度の育成につながっていくことを願っています。

ご家庭でも是非お子さんの誕生や、受け継がれる命の尊さや神秘等について一緒に話をしてみてください。



指導事例

小学校 高学年	題材名 わたしたちをとりまく性情報
------------	---------------------------------

1 題材について

近年、テレビやコンピュータ、さらには携帯電話等から様々な情報を、手軽に手に入れることができる時代になった。しかし、これらの情報の中には、児童にとって有害と思われるものや、営利目的のものも多くあり、児童への悪影響が心配される。

そこで、性に対する関心が高まり始めるこの期の児童に、自分達を取り巻く性情報がどのような影響を及ぼすかを考えさせ、それらの性情報に対して正しく対処する能力の基礎を培うことが必要であると考え、本題材を設定した。

2 ねらい

- 性情報の中には、危険なものがあることを知り、情報の正しい受け止め方や判断の仕方について考え、被害に遭わないための態度を身に付けることができる。

3 指導展開例

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点	資料・準備
導入	1 好きなテレビ番組やマンガを発表する。	○ 理由や内容についても、簡単に発表させる。 ○ 事前にアンケートをとっておくのもよい。	・事前アンケート <資料1>
展開	2 テレビやマンガに含まれる性情報にはどのようなものがあるか話し合う。 ・裸の場面 ・援助交際の場面 ・有害なサイト等に関する情報 ・商品の販売 等 3 テレビやマンガに夢中になることが及ぼす影響について話し合う。 ・男女の関係等に関する誤った認識 ・有害サイト等へのアクセスによるトラブル ・商品の購入に関するトラブル ・依存傾向の発現 等	○ 目をそむけたいくなるような場面やいやな感じがする内容等がないかを考えさせる。 ○ 実際にマンガや雑誌を示す等して身近にも性情報があふれていることを認識させる。 ○ テレビやマンガに含まれる性情報には、暴力的な場面や過激な表現があり、それらに夢中になることは、様々な危険を招くことに気付かせる。	・マンガや雑誌などの実物
終末	4 性情報の悪い影響を受けないためにどのようなことに気を付けるべきか考える。 ・正しい判断力をもつこと ・正確な情報を見極め、選択すること ・興味本位の思考に流されないこと 等 5 学習のまとめをする。 ・性情報に対する考え方等について話し合う。	○ 「教育ネットひむか」のサイトを活用し、体験を通して学ばせる。 ○ 性情報に対する受け止め方や態度について、全員で重点を確認し、まとめとする。	・教育ネットひむか「情報モラル・著作権」のサイト <資料2>

4 他の教育活動との関連

- 情報関連の内容（5年社会 内容（4）ア、イ）

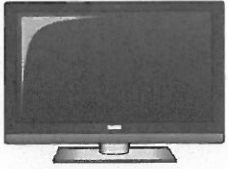
5 授業の配慮事項

- 取り扱うマンガや雑誌及び性情報については、児童の発達の段階や実態を十分に考慮して選ぶ。
- 情報には、有益なものが多く含まれることを押さえる。

<資料1> 事前アンケート調査

アンケート調査

年 組 名前 _____



1 好きなテレビ番組は何ですか？ その理由も書きましょう。

番組名	好きな理由

2 あなたがよく読むマンガや雑誌は何ですか？

マンガ・雑誌名	好きな理由

<資料2> 教育ネットひむかより（財団法人コンピュータ教育開発センター作成）



ネット社会の歩き方

ケータイ、パソコンでどんどん広がるネット社会。
このサイトでは、ネット社会を楽しく賢く歩いていくための、
考え方やノウハウを学ぶ各種教材をご提供しています。

小学生 中学生 高校生 先生 大人向け

パソコン 商店街 ネット社会の歩き方 2005年版 ネット社会の歩き方 2001年版 このサイトの使い方

<家庭へのお知らせ>

○月○日（○曜日）の学級活動の時間に、性に関する授業を行いました。
 今回の題材は、「わたしたちをとりまく性情報」でした。
 テレビ番組などが、お子さんの言動に悪い影響を与えていると感じられたことはないでしょうか。
 子どもたちが毎日接しているテレビやマンガ、インターネットや雑誌等の情報は、ためになるものも
 多い反面、有害と思われるものも増えてきています。例えば、平気で人を殺したり暴力をふるったりす
 る場面、性的な場面、言葉づかいや態度が悪い場面等、大人から見てチャンネルを変えたくなるものも
 あります。テレビやマンガを見るのが決して悪いことではなく、夢中になり過ぎることで及ぼす影響
 に気付かせ、情報との接し方について考えさせていくことをねらいとして授業を行いました。
 テレビやマンガ等の情報への接し方について、ご家庭でも話題にしていただけると今回の授業もさら
 に効果が高まるものと思います。

指導事例

小学校 高学年	題材名 家族の一員として
------------	----------------------------

1 題材について

社会状況の変化とともに、家族の形態も多様化してきているが、健康で快適に生きるためには、家庭生活をよりよくすることが大切である。身近な生活の中から課題を見出し、解決する上で、男女の違いや家族一人一人の特徴等を十分に理解することは極めて重要であり、自他の尊重という意味において、性に関する教育にもつながっていく。

そこで、第5学年の家庭科で学習する「家庭生活と家族」の学習に関連させ、家庭の仕事や分担について考えさせ、協力したり助け合ったりすることが大切であることに気付かせるとともに、家庭の仕事に主体的に関わっていこうとする態度を育てることには、大きな意義があると考え、本題材を設定した。

2 ねらい

- 家庭での自分の役割を自覚するとともに、男女及び個々の違いや特徴を尊重しながら、主体的に家族に協力して、よりよい家庭を築いていこうとすることができる。

3 指導展開例

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点	資料・準備																								
導入	1 家庭内の仕事について、話し合う。 ・主として誰が担っているか ・どのようなものがあるか	○ 自分の生活を振り返り、思いつくものを発表させる。																									
展開	2 自分の家の仕事の分担について、整理する。 <ワークシート例> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: center;">家族 仕事</td> <td style="text-align: center;">母</td> <td style="text-align: center;">父</td> <td style="text-align: center;">ぼく</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">食事のしたく</td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">食事の片付け</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">買い物</td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">そうじ</td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">洗たく</td> <td style="text-align: center;">◎</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table>	家族 仕事	母	父	ぼく	食事のしたく	◎			食事の片付け	○	◎		買い物	◎			そうじ	◎	○		洗たく	◎		○	○ ワークシートにまとめさせる。 ○ 家庭科の学習時にまとめておいたものを使ってもよい。 ○ いろいろな家族の形態を認めていくように配慮する。 ○ 性別で役割を固定するのではなく、お互いのよさや特徴を認め、話し合い、助け合うことが大切であることを確認させる。	・ワークシート <資料1>
家族 仕事	母	父	ぼく																								
食事のしたく	◎																										
食事の片付け	○	◎																									
買い物	◎																										
そうじ	◎	○																									
洗たく	◎		○																								
	3 仕事の分担を見て、気付いたことを話し合う。 ・解決すべき課題 ・家庭生活をよりよくするために必要なこと	○ 各家庭にはそれぞれできあがったシステムがあるため、それを否定するのではなく、これから家族の一員としてどうしていきたいかを話し合わせる。																									
終末	4 学習のまとめをする。	○ これから家族の一員としてどのようにしていこうとするのか、確認させ、実践に向けた意欲を高めさせる。	・ワークシート <資料1>																								

4 他の教育活動との関連

- 家庭生活と家族（5年家庭）

5 授業の配慮事項

- 各家庭の家族構成等実態に配慮する。

年 組 名前 _____



1 家庭の仕事と役割分担を整理してみよう。

(◎:主にしている ○:ときどきしている)

仕事		家族						
		自分						
食 事	作る							
	片付け							
買い物								
そうじ								
洗 た く	洗う							
	ほす							
	たたむ							

2 上の表を見て、気が付いたことを書きましょう。

3 家族の一員として、これからどのようにしていけばよいかを考えてみましょう。

<家庭へのお知らせ>

○月○日（○曜日）の学級活動の時間に、性に関する授業を行いました。

今回の題材は、「家族の一員として」でした。

家庭での自分の役割を自覚し、男女及び個々の違いや特徴を尊重しながら、進んで家族に協力して、よりよい家庭を築いていこうとする態度を育てることをねらいとして行いました。

今回の学習は、男女の違いや家族一人一人の特徴を理解し、尊重するという意味において、「性に関する教育」とも深くつながっていくものです。

社会状況の変化の中で、家族の在り方が多様化していくことはあっても、家庭生活をよりよくしたいと願う気持ちは変わらないと思います。

授業では、家族の仕事の分担を表に整理し、「分担が固定的なものになっていないか」、「仕事量に偏りがいないか」等様々な視点から改めて見つめ直しました。

子どもたち一人一人に、お互いを思いやり、尊重することの大切さを考え、自分も大事な家族の一員として、家庭の仕事に主体的に関わろうとする態度を育てていきたいものです。

ご家庭でもお子さんの話を聞きながら、一緒に学習を振り返っていただけると、ありがたいです。

指導事例

小学校 高学年	題材名 偏見と差別
------------	-------------------------

1 題材について

この期の児童は「差別をしてはいけない」ということは、頭の中では理解している。しかし、友だちを外見で差別したり、身体的な特徴に偏見をもったりする児童も見られ、そうしたことがいじめにつながる事例も少なくない。そこで、本学習において、病気に対する正しい知識・理解の大切さについて気付かせることは、エイズや性感染症に対して、誤解や偏見なく適切に判断し、行動できる能力や態度の育成にもつながり大変意義深いと考え、本題材を設定した。

2 ねらい

○ 感染症に対して正しく理解し、偏見をもたずに適切な行動をとることができる。

3 指導展開例

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点	資料・準備
導入	1 人から人に感染する病気について話し合う。 ・病名 ・感染経路	○ 自分や周りの人がかかった病気、保健で学習した内容等を想起させる。 ○ 資料を提示し、主な感染症と経路、予防方法等について確認をさせる	・主な感染症と感染経路 <資料1>
展開	2 感染症に関する差別や偏見の事例を知る。 ・エイズと闘ったライアン・ホワイト君 3 病気を理由に差別を受けている人々の気持ちについて話し合う。 ・正しく理解することの大切さ ・差別の理不尽さ 4 身近な差別や偏見について考える。 ・病気に対して ・身体的特徴に対して	○ 感染経路を知り、適切な予防策を行えば感染の恐れはないことを確認させる。 ○ 自分の考えをワークシートに記入させ、全体で意見を交換し合う。 ○ 正しい知識をもたずに、思い込んだり、決めつけたりすることから差別や偏見が生じていることを理解させる。 ○ 自分の周りにある差別や偏見について発表させる。	・エイズと闘ったライアン・ホワイト君 <資料2>
終末	5 学習のまとめをする。	○ 多様な差別があることに気付かせ、正しい知識に基づいて判断することや、差別や偏見を許さない断固とした姿勢の必要性について確認させる。	

4 他の教育活動との関連

- 病気の予防（6年体育）
- 公正・公平・正義（道徳）

5 授業の配慮事項

- 病気や身体的な面で悩んでいる児童がいないかを事前に把握しておく。
- 第6学年体育「病気の予防」の学習をした後に行うことが望ましい。

<資料1> 主な感染症と感染経路

*病原体がもとになって起こる病気

○インフルエンザ	○水ぼうそう	○エイズ	○食中毒
○風しん	○日本脳えん	○結かく	○とびひ
○麻しん (はしか)	○肝炎	○破傷風	○百日咳
○おたふくかぜ	○感染性胃腸炎	○せきり	

*人から人へ感染する主な感染症

感染症名	感染経路	予防対策 (例)
エイズ (HIV)	性的接触、血液感染、母子感染	性的接触をしないこと
結核	空気感染	
インフルエンザ	飛沫感染、接触感染	手洗い、マスクの着用、うがい
感染性胃腸炎	糞口感染	手洗い、消毒
麻疹	空気感染、飛沫感染、接触感染	予防接種
B型肝炎	母子感染、血液感染、性的接触	性的接触をしないこと 予防接種
C型肝炎	血液感染	

<資料2> エイズと闘ったライアン・ホワイト君

ライアン・ホワイト君の話は聞いたことがあるでしょうか。彼は、血友病の治療でエイズウイルスに感染したのです。13才になってまもなく、肺炎で病院に担ぎこまれました。

ホワイト君を診察した小児科のクレイマン医師は、しばらく考え込み、やがていいにくそうに口を開きました。「お気の毒ですがエイズにおかされています。あと3~4か月の命です。」

当時はまだ、エイズに対する正しい知識も情報も不足していました。エイズはどのように感染するかさえ知られてなかったのです。アメリカ全土が得体の知れない病気におどらされ、パニック状態にありました。ホワイト君は入学を拒否されました。やがて教室に設けられた電話を通して、自宅で授業を受けるありさまです。ようやく復学は認められたものの、依然、偏見は強く、「エイズ野郎はでて行け!」、「ヤツと同じ空気を吸わなきゃならないなんて、ゾッとするぜ。」などの罵りにじっと耐えなければなりません。彼は町を離れ、インディアナ州のシセロという町に移りました。ここではホワイト君は特別扱いされませんでした。彼が選んだハミルトンハイツ高等学校では、全校をあげて正しいエイズ教育が行われました。ちょうどそのころ、新薬AZTが登場し、そのおかげでホワイト君は外見上は健康な青少年とほとんどかわらないまでに回復しました。

ホワイト君は、エイズ患者やエイズウイルス感染者に対する偏見をなくすために積極的に活動に取り組みました。テレビや雑誌、さらにアメリカ議会の公聴会にも登場し切々と訴えました。

「エイズ患者だって、普通の人と同じように充実した人生をおくる権利がある。どうか差別も特別視もしないでください。」その声明は全米中に感動を与えました。

しかし、インディアナ大学入学の希望ははたせず、1990年4月に亡くなりました。彼の生き方は、エイズに対する誤解や偏見、差別をなくすことに大きな貢献をはたしました。学校がエイズ感染者を受け入れるようになり、国をあげてエイズ予防教育に取り組むきっかけとなったのです。

ホワイト君はいいました。「僕を排除した人達は、エイズを知らなかったからだ。」この一言に、エイズに対する誤解・偏見・差別を取り払う鍵がこめられています。

<家庭へのお知らせ>

○月○日 (○曜日) の学級活動の時間に、性に関する授業を行いました。

今回の題材は、「偏見と差別」でした。

病気や外見等に対して偏見をもったり差別をしたりしないためには、正しい知識や理解が必要です。

そのため、実際に偏見や差別を取り扱った資料を使い、病気を理由に現在も差別を受けている人がいる現状について考え、誰にでも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避け、偏見や差別をなくすことの大切さについて学びました。ご家庭でもお子さんと一緒に学習を振り返っていただくと、意識を一層高めることができるものと思います。